

第1回 蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議 概要

- 1 日 時 平成27年5月13日(水) 午後1時開会・午後4時閉会
- 2 場 所 蒲郡市役所3階303会議室
- 3 会議参加者 別添名簿のとおり
- 4 委嘱状授与式
 - ① 委員委嘱状授与
 - ② 市長挨拶
- 5 次第
 - ① ファシリテーター自己紹介
ファシリテーター：名古屋大学大学院工学研究科 恒川和久 准教授
 - ② 参加委員自己紹介
 - ③ 公共施設の老朽化問題と公共施設マネジメントの必要性
「まちづくりとしての公共施設マネジメント」と題し、公共施設の課題、公共施設白書の現状、地域と施設の価値、公共FM（ファシリティーマネジメント）のプロセス、まちづくりとしてのFMについて、以上5点について、ファシリテーターから説明。
 - ④ 蒲郡市における公共施設の現状
ファシリテーターからの指示により、市職員が蒲郡市の現状を説明。
 - ⑤ 公共施設に対するニーズの変化と蒲郡市の将来について
再び、ファシリテーターから、社会変化に対するニーズの変化についての説明。
 - ⑥ ファーストインプレッション発表
各委員から第1回の会議内での講義・説明から受けた印象や感想の発表がありました。公共施設は将来どうあるべきか、公共施設に対してどのようなニーズがあるのか、あるいは将来の公共施設はどんなふうになっていくべきか、ご意見をいただきました。
これらの意見は以下のとおりですが、次回以降の会議の中で議論の焦点としてとりあげていく予定です。
 - ◆ 核家族化や女性の社会進出など旧来の家族構成の変化があり、また、定年を過ぎてからも70歳くらいまではみんな働くという風潮もあり、公共施設へのニーズとしては、定年後の高齢者や小学校低学年児のための対応が求められると思う。また、施設へのアクセスの問題も考えながら、まちづくりができればよいと思う。
 - ◆ お金をとることのできる公共施設があれば、財源不足の悩みも多少緩和するのでは。お金を払っても良いと思う施設を作れば、有料でも利用者は増えると思う。
 - ◆ 蒲郡市は他市と比べると、飲食店やカルチャー・スクールなどが少なく、不満に思うところはある。いろいろな年代の人々の交流が実現できるとよい。
 - ◆ 蒲郡市はハコモノが多いような気がするが、照明が切れているとか、音響が悪いとか駐車場が少ないとかで使い勝手が悪い。
 - ◆ 施設は駅に近いという要素は大事である。地域密着施設とは違って、図書館や市民会館のような施設は、必ずしも現在あるところになければいけないということはない。

いと思う。

- ◆ 勤労福祉会館や生きがいセンターのような類似施設は複合施設になるのであれば統合することもありかもしれない。ただし、施設に部屋はたくさんあった方がよいし、駐車場も広くあったほうがよい。スターバックスやコンビニエンス・ストアのある複合施設はあったらいいなと思う。
- ◆ 高齢者向けの施設をどうすべきかについては、若い世代にはよくわからないのではないか。
- ◆ その場所に必要な施設と、かならずしも必要ではない施設は分けて考えるべきではないかと思う。
- ◆ 昭和50年代の蒲郡市は施設も新しくすばらしいと思っていたが、なんで今このような状況になったのか。地場産業の右肩下がりもあり、過去のどこかの時点で行政の方々が将来を見据えた対応をすべき時があったのではないかと思う。その点は残念である。現状認識をすべく白書を作成した姿勢は評価したい。ただし、白書で人口推計を行っているが、その前に人口増加対策を考えるべきではないか。
- ◆ 地方創生の総合戦略の一環として、広域連合の範囲で公共施設を分かち合うという考えは必要だと思う。
- ◆ コンパクトシティという考え方は大事で、都市計画そのものを見直す必要があると思う。
- ◆ 市民と市とで、公共施設の必要不必要をしっかりと分けるべき。民間でできることは民間で、という考え方も必要。
- ◆ 観光交流立市の観点から、国内外からの滞在客へのアピールもいるのではないか。滞在客が少しでも長く滞在したいと感じるならば、経済効果もあるし、もしかしたら定住化や雇用への促進にもつながるかもしれない。
- ◆ 地域施設については、地域において施設関連資金を積み立てするのはどうか。また合わせて施設の有料化を考えてみてはどうか。
- ◆ 企業誘致や人口増対策などによる財源確保は必要であると思う。
- ◆ 施設利用については、利用の細分化ではなく、共有化の方向を考えた方がよいと思う。例えば70歳過ぎても元気な高齢者は仕事がなく暇をもてあますということもあるので、乳幼児のための施設に老人を含めて話し合いができるような施設があれば、ボケ防止にもつながると思うし、話がしたいがために病院へ通うということもなくなると思うので、介護・医療費の抑制にもつながるのではないか。
- ◆ 白書の中で類似自治体との比較があったが、蒲郡市は大塚から西浦まで細長い地形なので、施設数が多くなるのは仕方がないのかなと思う。
- ◆ 公民館の利用者は60歳以上の高齢者が多いと思う。高齢者がいろいろな施設で活動できるように、例えば学校の中に公民館があるといった工夫が必要だと思う。子どもたちも登下校の際に地域のお年寄りや挨拶を交わすことができるので、地域のコミュニティを考え、施設の特性を活かしていく必要があると思う。
- ◆ 個々人の自立やライフスタイルの変化などが公共施設に対するニーズの変化に関係するというお話を聞いて感銘した。30年後のライフスタイルの変化を想像するこ

とが今後の公共施設のあり方を考えることにつながる。高齢者や若者、子育て世代や子どものいない夫婦などの各世代ニーズを反映した施設ができるとういと思う。

- ◆ 存在を知らない施設や利用したことがない施設が多かった。
- ◆ 公共施設は無料で使える方がよい。
- ◆ ただハコモノをつくれればよいという問題ではない。これからは各世代が自ら考え、自ら行うという姿勢が大事だと思う。これからはハコモノの使い方をよく吟味して、どういう使い方がされるべきか、よく考えていくべきだと思う。
- ◆ 施設のうち、学校が占める割合は圧倒的に多いと思った。少子化に備えて最初は学校を統合すればよいのかと思っていたが、併合施設での対応もよいとも思った。
- ◆ 愛知県のあるところという立地条件をアピールし、ここに住みたいと思われるようなまちづくりが必要と感じた。
- ◆ 公共施設の統廃合の際には、世代毎のニーズを反映できる施設を考える方がよい。例えば児童館に高齢者の人が集まりやすい場所ができたなら、お年寄りも話し相手ができるし、子どもたちもお年寄りから昔の遊びを教えてもらったりできるので、よいと思う。
- ◆ 高校生の頃によく図書館の利用をしたが、立地が駅から遠いため、親に送ってもらって利用をした。駅から近ければ他市の高校生も利用しやすいのではないかと考えた。